

粕谷和夫の観察日記。今年は柿が豊作のようです。庭先の柿の木は野鳥達の好きな食料源。この写真は八王子の畑の一角に残る1本の柿、そろそろ食べつくそうとしているムクドリです。柿の実にはメジロ、ヒヨドリ、ツグミ、スズメなどもやって来ます。HPで調べると「シロハラやトラツグミも」だそうですが、熊だけは来て欲しくありません。

紅葉台



新聞

第218号

2026年
1月24日

発行人：関谷 孝

みつばち文庫 みんなの居場所



「**学びを大切にして地域に目を向ける**」徳井仁子さんが目指す居心地のいい場所です。HPには、「絵本や児童書、子育て雑誌、子どもの健康や食事の本など貸し出します。子育て広場やイベントを通して、子育て中のお母さんたちを応援しています。地域の皆さんの居場所としてどうぞご利用ください。」私も同じような「居心地のいい場所」作りをしています。徳井さんは、すでに作って10年来にわたって活動しています。今回徳井さんから話を聞く機会がありましたので紹介します。



場所は多摩境。駅から徒歩5分。自宅を開放し、毎週水曜日10時半から16時半にオープンしています。赤ちゃんからシニアまでどなたでもウエルカム。

もともと保育士の仕事をしていたので子供の遊びや絵本などノウハウがたくさんありました。かつて自宅でご両親を介護した時、たくさんの方が訪問していました。その時にたくさんの方に助けてもらったことに感謝の思いがありました。今度は自分が人の何か役に立つことがしたいと思ったのがきっかけと話していました。

そこで思い切って自宅を図書館にして開放しました。地域の公民館や子育てグループにチラシを作って配り周知したところ、徐々に赤ちゃん連れのお母さんたちが来るようになりました。子育てに悩み、一人で子育て奮闘する中で友人を作りたい、子育ての情報を知りたい人など様々な悩みを抱え子育てしている人がいることに気づかされました。赤ちゃんだけでなくお母さんたちも元気になって情報交換するようになりました。徳井さんが独自に作った布製のやさしいおもちゃも好評でした。そんな中でパン作りが得意な人が料理教室をしたり、赤ちゃんマッサージをしたり、わらべ歌を広めたい人もいました。そこで、レンタルスペースとして一日500円で部屋を貸し、講師は得意な人が引き受けてイベントを開始しました。とても好評で親子で参加する人が増えていきました。また、それとは別に大人向けに「大人のアトリエ」を始めます。絵の得意な人、刺繍などモノづくりが好きな人など様々な能力がある人達が講師になって教室を始めました。徳井さんは場所を提供しています。また、子ども食堂に関わっている人が「スープの世界」として毎月第4水曜日スープ販売をしています。これまで不登校になった人の居場所としても使われてい

ます。特に何かをしないということはなく、自分で好きに過ごすことが出来ます。親御さんにとっても癒しの場所になります。**みんな誰かと話したい。話を聞いてもらいたい。友達を作りたいと思っています。人口の多い都会はある意味孤独を感じている人がたくさんいます。徳井さんは自分もたくさんの人と出会って学ぶことが出来とても楽しいと話していたのが印象的でした。「楽しいからこそ続けられる」**のですね。

自宅を開放することで自然と人が集まりまた新しい企画が出来る。それを自分も楽しむ。充実したい日々だと言います。「水曜日はお弁当をもってきてください」と話していました。



この日は、玄関に柚子がたくさん置いてありました。ほしい方はどなたでも。そして少しカンパしてみんなで支える。また、裏庭は縄文時代の田端環状積石遺構が出土したため公園になっています。ここは丹沢山地の最高峰蛭ヶ岳に冬至の日に太陽が沈むパワースポットです。不思議なパワーに満ちこちらまで元気をもらいました。自分にも何か貢献できることがあるはず。徳井さんの話を聞いて自分も新たに勇気をもらいました。



八王子市では、「地域サロン」として市が助成金を出しています。紅葉台自治会でも昨年から毎月2回（火・土の午前中）に始まりました。今日も元気で出かけられる場所づくりが求められています。

尚、みつばち文庫は町田市にあり、「社会福祉協議会歳末助け合い配分事業」に参加しています。

粕谷和夫の観察日記



12月8日、朝8時、場所はある野市秋川の秋川橋付近。**アオサギの目覚めの姿**です。杉の高木をねぐらとしているアオサギに朝の日が射しました。西の空には下弦の月が残っています（写真上）。全部で15羽いました。写真下はその一部の拡大版です。これとは対称的に下の川ではカワラヒワが朝の水浴びをしていました。

センニンソウは真夏の花、株を覆うように花がたくさん咲き、とても見ごたえがあります。まるで雪が降り積もったかのように見える様子ですが、猛暑をビクともいえない強さを感じます。そのセンニンソウが12月の今頃、種になってこの写真のように変身します。仙人草という名前の由来はこの写真のように「ふわふわした白いひげのようなもの」がついているのを、仙人のひげに見立てたからだといわれています。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。